2024年7月26日滋賀県立美術館付近で観察した植物

作；岡田弘

ヤハズソウ（矢筈草）マメ科ヤハズソウ属＊花期＝8～10月

名前の由来＝葉に斜めに並んだ側脈があり、先を引っ張ると矢筈のような形になるので。＊矢筈とは？弓矢の弦にかける矢羽根のこと。
日本の在来種、道端や草地などに普通に生えている、葉は３出複葉で名前の由来の様に側脈が斜めにきれいに並んでいる、茎には下向きの毛が生えている、這うようにして広がり群生している、花はマメ科共通の蝶形花淡い紅紫色５mm程度。
ツバメシジミ・モンキチョウの幼虫の食草、＊**花言葉＝雄弁。**
今回はバスを降りたところの土手や道端に多く群生していました。

スズメノヤリ（雀之槍）イグサ科スズメノヤリ属＊花期＝３～５月

名前の由来＝上に伸びた花茎の先に茶色の花穂が付く様が、昔、大名行列の奴さんが持つていた毛槍に似ているので。＊野草の名前に「雀」「姫」と付いているのは小さいと云う意味をもつています。日本の在来種で芝生などに混じって生えている、今回も芝生の中に多くみられた。風媒花の特徴、雌蕊が先に熟して（雌性期）雄しべが後から熟し花粉を飛ばす（雄性期）が多い。虫媒花はその逆で、先におしべが先塾になるのが多い。
イネ科やイグサ科は風媒花が多いのでイネ科花粉症になる方もいます。これらは虫を呼ぶ必要がないので目立つ花を付けません、＊**花言葉＝邪魔しないで**

ヒツジグサ（未草）スイレン科スイレン属＊花期＝６～９月

名前の由来＝諸説ある。①末の刻（午後２時）頃に花が咲き始めるから。②逆にこの時刻頃花が閉じ始めるから、ヒツジの字を「末」とした。③はの基部の切れ込みの形がヒツジのヒズメに似ているから。等々、花の咲く時刻は１０時頃であるので、閉じる時刻から漢字を末としたのではが有力。
スイレン（睡蓮）との違いは、スイレンは外来種で花も大きく花弁が多い、花色が多様、ヒツジグサは在来種で１種類のみで花は白色、葉の基部の切れ込みが広がっている、スイレンは閉じてくっついている。ヒツジグサは水底に根を張り地下茎から長い葉柄を延ばし水面に葉を浮かせる多年草。花は花柄を水面上にだして白い花を１個咲かせる。＊**花言葉＝清純な心・信頼・信仰。＊ビオトープにあった。コウホネ、も同じ場所**

コウホネ（河骨）スイレン科コウホネ属＊花期＝６～１０月

名前の由来＝底泥中を這う白い地下茎が骨の様にみえるから。この根は生薬として乾燥させて、沈咳、利尿、消炎、浄血、止血、強壮、解熱、等々に使われた、漢方でも。
日本固有種で北海道～九州に分布、絶滅危惧種に指定している県もある。水草の一種で底泥中を横に這う地下茎から葉を伸ばし普通は水面より上に立ち上げるが水面に浮かせる遊水葉をつけることもある、水中の沈水葉は細長く、冬も枯れない。花柄の先に３～5ｃｍ黄色の花を咲かせる。＊**花言葉＝崇高・秘められた愛情・その恋は危険**

ネムノキ（合歓の木）マメ科ネムノキ属＊花期＝6～7月

名前の由来＝夜になると葉を閉じて（就眠運動）たれ下がるので眠るように見えるから眠る木となった。漢字の「合歓」との意味合いは、合歓とは男女が共寝すること、歓びを共にすることを表す言葉、夜になると葉が閉じてピッタリと合わさる様子が男女が共寝している姿に似ているためと、又、中国では不機嫌な夫にネムの花を酒に入れて飲ますと気嫌が良くなるという伝説から「家族が仲良くなる」「喜びを共にする」と言う意味合いから「合歓」が用いられたとも考えられる。
葉は小葉を沢山つけた羽片が並ぶ2回偶数複葉、根は根粒バクテリアがいてやせ地でも生育が早いパイオニア植物、花弁がなく紅色は雄しべです＊**花言葉＝胸のトキめき・夢想・安らぎ・歓喜・想像力。**

エンジュ（槐）マメ科エンジュ属＊花期＝7～8月

名前の由来＝古名「エニス（恵爾須）」が転訛した、古くは「エンズ」や「エンジ」と呼ばれてていた、エニスは、エンジュの種子を意味する「エス（槐子）」に由来する。
中国原産で古くから台湾、韓国、日本で植栽されていた、日本へは８世紀には渡来していたとみられる、葉は奇数羽状複葉で新芽はお茶の代わりとして利用、蕾や種子は染料として利用できる、乾燥させた蕾や種子は止血薬として、含まれている「ルチン」はサプリメントとして利用されています。＊**花言葉＝上品・幸福・慕情。**＊美術館前の街路樹です。